

カービュー マーケットウォッチ (2012年10月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：金子 昭一）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析した。

乗用車全体で前年同月比96.3%と12カ月ぶりのマイナス

12年 9月順位	12年 8月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	22,091
2	(2)	→	アクア	トヨタ	22,039
3	(-)	↑	ノート	日産	18,355
4	(3)	↓	フィット	ホンダ	12,511
5	(4)	↓	セレナ	日産	8,865
6	(16)	↑	インプレッサ	スバル	7,278
7	(7)	→	フリード	ホンダ	6,230
8	(6)	↓	ヴィッツ	トヨタ	5,990
9	(5)	↓	カローラ	トヨタ	5,972
10	(12)	↑	CX-5	マツダ	5,530
11	(9)	↓	スペイド	トヨタ	5,513
12	(8)	↓	ポルテ	トヨタ	4,874
13	(10)	↓	ステップワゴン	ホンダ	4,826
14	(-)	↑	ミラージュ	三菱	4,483
15	(11)	↓	デミオ	マツダ	4,112
16	(13)	↓	スイフト	スズキ	3,608
17	(15)	↓	パッソ	トヨタ	3,345
18	(14)	↓	エスティマ	トヨタ	3,325
19	(19)	→	ソリオ	スズキ	3,176
20	(17)	↓	ヴォクシー	トヨタ	3,023

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で前年同月比 96.3%と 12 カ月ぶりのマイナス
ただ軽乗用車は 12.4%増、輸入乗車も 1.8%増と好調を堅持

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した9月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は 37 万 7738 台、前年同月比 96.3%（貨物車、バスを含む新車総販売数は 44 万 6687 台、前年同月比 96.6%）と 12 カ月ぶりに前年を下回った。

これまで追い風となっていたエコカー補助金が 9 月 21 日申請分で打ち切られたため、今後はどの程度反動減を抑制できるかが注目される。特に登録車（3/5 ナンバー乗用車）は 25 万 2187 台で、今年と同様に補助金終了の反動減に見舞われた 10 年 9 月の 27 万 8283 台を下回り、リーマンショックの激震に揺れた 08 年 9 月の 26 万 9468 台より低い数字となっている。

軽乗用車は前年同月比 12.4%増と、伸び率こそ前月より下がったが好調を維持しているだけに、出足好調な「日産 ノート」、「三菱 ミラージュ」や今後投入予定のニューモデルがどこまで市場を牽引できるかがカギになりそうだ。

輸入車と軽乗用車を除く 3/5 ナンバーの国産乗用車（日産マーチ 2753 台、三菱ミラージュ 4483 台含む）は 22 万 5031 台、前年同月比は 88.7%と、乗用車全体の前年同月比を大きく下回った。メーカーブランド合計ではスバル、スズキ、三菱以外は前年を下回り、特にレクサスとホンダは前年同月比 65.7%、60.5%と大幅な落ち込みとなった。

月間ランキングでは 16 カ月連続トップの「トヨタ プリウス（α含む）」と 2 位「トヨタ アクア」は 6 カ月連続で変動なしだが、3 位に「日産 ノート」がジャンプアップ。月間販売目標 1 万台に対し、1 万 8355 台の好スタートとなった。発売後 2 週間で 2 万 1880 台の受注を集めているだけに今後も楽しみだ。

また 8 月 31 日に発売された「三菱 ミラージュ」が 4483 台で 14 位にランクイン。販売目標は年度末まで 3 万台だから、ほぼ目標通りの売れ行きで、発売後 1 カ月の受注も 1 万 603 台と好調だ。前月 8、9 位の「トヨタ ポルテ/スペイド」は 9 月もスペイド 11 位、ポルテ 12 位と好位置につけ、「マツダ CX-5」が 10 位で初のトップ 10 入りを果たすなど、ニューモデルが総じて堅調なのが心強い。

軽自動車は乗用車部門が 12 万 5551 台/前年同月比 112.4%（貨物車を含めた全体は 15 万 8208 台/前年同月比 106.6%）で、12 カ月連続プラス。車名別では 9 月 6 日にモデルチェンジした「スズキ ワゴン R」が 2 万 891 台で 5 カ月連続トップを続けていた「ホンダ N BOX」からトップの座を奪い返した。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは 2 万 6510 台、前年同月比は 101.8%（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では 3 万 4392 台、同 105.6%）で 5 カ月連続で前年を上回った。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはメルセデス・ベンツが前年同月比 13.0%増となる 5299 台で 10 年 9 月以来のトップ、2 位は 5051 台ながら前年同月比 78.4%と低調だった VW

(フォルクスワーゲン)、3位は5030台/前年同月比120.8%のBMW(ミニを除く)だった。またボルボが前年同月比5.6%増の1669台で、5位が定位置化していたミニを抜いてワンランクアップしたのも要注目だ。

■ココも気になる！ その1

新型ミラージュ&アウトランダーで3年ぶりの前年増を狙う三菱

05年に当時のダイムラークライスラーとの提携関係を解消し、三菱グループの全面支援で独自路線を歩む三菱だが、08年のリーマンショックや昨年の東日本大震災など日本全体を揺るがす逆風の中、昨年は貨物車を含む新車販売で13万3070台と、05年の24万3973台に比べ45.5%減まで落ち込んだ(国内新車市場全体では昨年は05年比28.1%減)。ただ今年の3月期決算では売上高は減ったものの、コスト削減や輸出の採算管理強化などで増益となり、経営体質は改善されつつある。

そんな三菱が自社開発モデルとしては10年2月の「RVR」以来2年ぶりとなるニューモデル、「ミラージュ」で攻勢に出た。ミラージュは初代が78年に発売され、5代目まで続いた三菱屈指の成功モデル。今回はタイで生産する輸入車となるが、すでにタイではエコカー市場No.1になるほど人気となっている。

日本では8月31日に発売され、1カ月で1万603台を受注。アイドリングストップ機構搭載の「G」と「M」グレードが全体の約99%を占め、9月には4483台で、昨年4月に「デリカD:2」が27位に入った以来のトップ30圏内となる14位と快調な滑り出しとなった。これで1~9月累計で11万1441台となり、前年同期比96.3%まで回復。復調ペースは他社より劣るとはいえ、3年ぶりの前年超えも視野に入ってきた。

そして10月には今年3月のジュネーブモーターショーで公開した「アウトランダー」を国内に投入。エクステリアは水平基調のエレガントなデザインで、インテリアも質感が大幅にアップ。さらに衝突被害軽減ブレーキシステムや車線逸脱警報システムが用意されるだけに、どんな価格設定がなされるのか注目だ。

こうした新車攻勢に加え、来年には導入予定の新型アウトランダーベースのプラグインハイブリッド車(PHEV)や、i-MiEVで先行する電気自動車などの環境対応車が復調のペースアップのキーになりそうだ。

■ココも気になる！ その2

輸入車ブランド No.2 奪還に向け、メルセデス・ベンツが伸張

昨年、国内の乗用車市場が 16.3%減となるなか、海外メーカー製輸入乗用車市場は 13.1%増の 20 万 3800 台と、ほぼリーマンショック前の 07 年レベルまで回復。今年も堅調な売れ行きで、1~9 月累計で 17 万 7221 台／前年同期比 18.7%増となっている。

9 月末時点のトップは 12 年連続で年間輸入車ブランド No.1 を続けている VW で 4 万 1970 台／前年同期比 12.6%増だが、注目は 2 位争い。昨年まで 3 年連続で年間 2 位を堅持していた BMW をメルセデス・ベンツが抜き、3 万 635 台／同 24.3%増で 3 位の BMW2 万 9524 台／同 23.0%増を上回っているのだ。

メルセデス・ベンツは 9 月単月で 5299 台と、10 年 9 月以来の月間トップを奪取しているが、その牽引役となっているのが「C クラス（セダン、ステーションワゴン、クーペの合計）」。C クラスは前年同月比 22.4%増の 1875 台で、モデル別で初の月間トップとなったのだが、1~9 月の累計でも 1 万 1343 台／前年同期比 23.5%増で、VW ゴルフ 1 万 8669 台／同 1.1%増、ミニ 1 万 2124 台／同 3.8%増、VW ポロ 1 万 1667 台／同 7.0%減に次いで 4 位にランクイン。ライバル BMW3 シリーズは 7132 台／同 3.2%増で 6 位だった。

メルセデス・ベンツは世界市場でも好調で、乗用車部門（スマート含む）は今年上半期（1~6 月）で 70 万 8700 台／前年同期比 6.5%増と過去最高を記録。C クラスが 14.9%増と新記録達成に貢献したほか、新型「M クラス」をはじめ、SUV も大きく売れ行きを伸ばした。

このほか日本には 4 月に導入された「B クラス」も好調で、日本では 4~9 月で 4500 台強と 9 月末時点の輸入乗用車モデル別ランキングで 10 位相当の売れ行きになっている。10 月 12 日に発売された「CLS シューティングブレーク」をはじめ、来春には新型「A クラス」も導入予定。BMW との年間 2 位争いを含め、メルセデス・ベンツのニューモデル戦略にも注目したい。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 総務部 広報チーム (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
